



大森消防団だより

Vol. 70

2025年7月1日発行

発行所 大森消防団広報委員会



2025年度優勝 第1分団

- 目次 -

1. 都大会出場に向けて
2. 継承と変化のはざままで～操法大会のいま～
3. 応急救護勉強会
4. 消防団員ご紹介
5. 編集後記

紙の「大森消防団だより」をご希望される方は
各分団の広報委員へお知らせください。

都大会出場に向けて

大森消防団第1分団、3番員を務めさせていただきました郡司と申します。この度初めて操法大会に参加出来て都大会の切符を掴む事が出来てとても嬉しく思います。支援の皆様や他の選手に連れて来てもらった部分が大きく感謝の気持ちでいっぱいです。都大会まで残りの時間を自分の至らなかった部分を修正し、優勝を目指して、より貢献出来るように精一杯頑張ります。

10月まで長丁場となりますが、訓練のご支援よろしくお願いします。

[第1分団 郡司 豊知]



継承と変化のはざまで

～操法大会のいま～

大森地域の消防団員が集い、消防操法の技術を競い合う「操法大会」が開催されました。

これは、日頃の訓練の成果を発揮する場であると同時に、地域の防災力を高める大切な機会でもあります。しかし近年では、団員の高齢化や人手不足に加え、訓練の負担といった課題も浮かび上がっています。たとえば、2023年には岐阜県飛騨市が団員の負担軽減を理由に操法大会を廃止するという決断を下しました。こうした事例は、操法のあり方を改めて考えるきっかけとなっています。

操法の訓練では、マニュアルに頼るだけでなく、口伝や先輩の動きを見て学ぶ「実地の伝承」が中心です。動作のタイミングや掛け声などは文章だけでは伝えきれず、言葉と動きを繰り返し体に刻み込むことによって習得されていきます。同じ操作でも、分団ごとの所作にわずかな違いが見られ、その違いは、その分団に根ざしてきた「やり方」であり、まるで方言のようにも感じられます。

こうした訓練を通して育まれるのは、いざというときの判断力や、言葉にせずとも伝わる信頼関係など、人と人とのつながりです。これもまた操法の大きな意義のひとつであり、AIやデジタル技術では容易に置き換えることのできない「人間力」が表れていると思います。

今後、操法大会は、地域の実情に応じて変わっていく可能性があります。それでも、そこに宿る「技術の継承」と「地域の絆」という価値は、これからも大切に守り続けられていくことが望まれます。時代に合ったかたちを模索しながら、消防操法を次の世代へつなげていくことが、いま求められているのかもしれません。[第7分団 藤井 直美]



応急救護勉強会(1/2)

大森消防団では応急救護の講習を担当する団員が毎月第3水曜日に本署や出張所に集まって勉強会を行っています。

◆女性団員目線で見直す救急救命！

今、大切なテーマのひとつが、『女性団員目線で見直す救急救命！』です。今回は、5組の女性団員による発表という形式をとりました。その概要を広報誌でお伝えします。とてもきめ細やか、素晴らしい内容、参加した団員が男女を問わず皆、大きくうなづくとても良い勉強会でした。

さて、意外に知られていませんが、女性へのAED使用率は、男性に比べると圧倒的に少ないのです。AEDを女性に使用する際の工夫、配慮を知ろう、上半身の衣服を脱がせる必要はない、衣服の中にAEDのパッドを入れて装着できる、具体的には、

- ①右の鎖骨の下と左の脇腹の辺りに貼る事で対応
- ②パッドを素肌に直接貼り付ける事が出来ればブラジャーを外す必要はない
- ③周りの方に適宜、タオルなどで目隠しを手伝ってもらう

また参加者からの提案として、

- ④薄手の布、黒の目隠しシート等をAEDの中に備え付けてはどうか
 - ⑤これは女性だけの特別なことではない、見た目で男女の判断はせずに昨今のジェンダーレスの観点から全ての人に配慮して欲しい
- などがありました。

■参考情報

「女性に配慮したAEDの使用方法について(大田区のウェブサイト)」



応急救護勉強会(2/2)

◆救命講習指導者の悩み

また、この日は、救命講習指導者の悩みの共有の時間もありました。

- ・意外に難しい本結び
- ・三角巾を使用する際の結び目や締め付けの配慮
- ・参加しても講習に身が入っていない受講者への接し方
- ・防災訓練で実地に気を付けてたい事

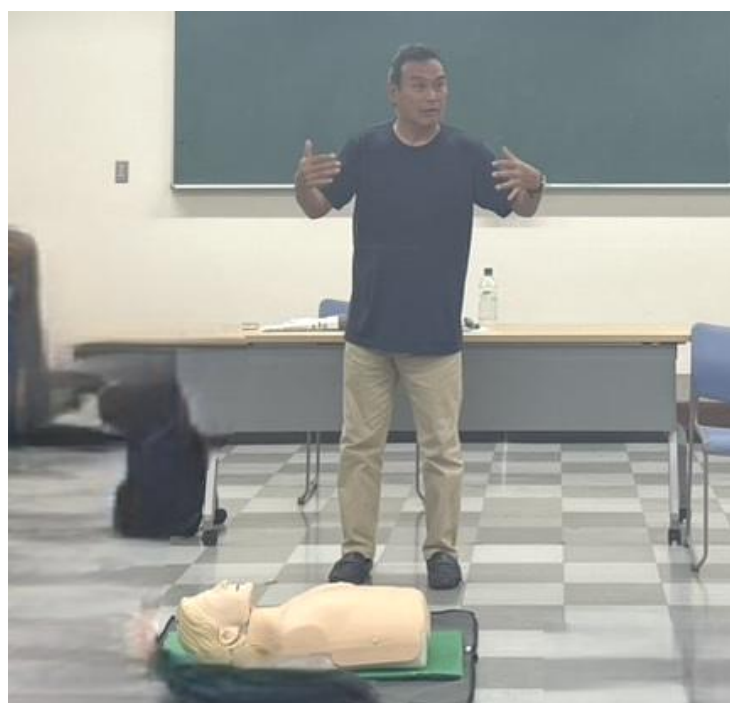
などなど。

地域の防災訓練の一環としてともに街中を歩く町内会もあるそうです。

AEDの設置場所、スタンドパイプが使用出来る場所を見て回ることはとても有意義、住民の働きかけでAEDの設置場所を屋内から屋外に移した事例もあるそうです。

一般の人がAEDを使用出来るようになってから2024年7月で20年が経ちます。助かる、助からないはとても重要、そして、助かったから早く社会復帰して欲しいと心から願います。

さまざまな工夫で救急救命、そして地域防災、消防団にできることはまだまだたくさんあります。



消防団員ご紹介(1/2)

■第6分団 松沼裕之団員（団歴1年）

入団したきっかけは、町内会に入った際に、町内会にも消防団にも所属している方から、消防団にも入らないかと勧められ、そのまま入団する運びとなりました。私は自衛隊を除隊したものの、国防の気持ちはずっと持ち続けており、消防団に入って地域防災の一助になるきっかけができ、とても有り難いと思いました。

やりたいことは、先ず、有事の際に確実に任務遂行できる人材になる為に、様々な訓練を受けて消防や救助に関わるスキルを身に着けることです。

また、活動を通じ、地域の方々の防災や安全意識の向上、地域の方々のつながりの活性化、消防団の活動の周知と賛同者の獲得等、住みやすい地域づくりに貢献したいと思っています。



■第7分団 三井達志団員（団歴1年）

消防署で見かけた＜消防団員募集＞チラシが入団のキッカケでした。興味があったので消防署に問い合わせると、すぐに分団長との面談が行われ、＜週末の仕事が多く活動参加への不安＞を相談すると「出来ることから参加ください」と助言をいただき、安心して入団を決意しました。

入団当初は、消防団の規律・行動にプレッシャーを感じたり苦勞することもありましたが、最近は規律正しく行動しチームワークの大切さを感じながら、冷静に活動できるようになってきました。また入団を機に、救命講習（普通、上級、普及員）から防災士の資格も取得し、今後は上級救命講習普及員として活動したいと考えています。これからも消防団活動



を続けることで、安全安心な社会を作る手助けができると信じています。

■第5分団 原田裕団員（団歴7年）

私が今住んでる地域池上に移り早9年位になります。その頃子供達に通っていた学校関係の保護者で作るボランティア活動に参加した時に、同じ会の保護者の方から消防団のお誘いを頂きました。

私も住んでるこの地域で色々な方々と交流したく7年位前に入団を決意しました。入団して、規律訓練や救命法を学んだり、操法大会や日々の訓練、地域パトロールなどこの地域でしか出来ない沢山の事を学ばせてもらいました。

これからも人と人の繋がりを大切にして、日々の消防団活動や地域の方々の支えになれるよう、努力していきたいです。

消防団員ご紹介(2/2)

■第2分団 有和孝浩団員（団歴2年）

Q1:消防団に入団の経緯について教えてください。

消防イベントに参加して入団チラシをもらい妻の勧めで入団をしました。

Q2:入団にあたり奥様のご理解があったかと？

はい、今の生活水準を保ちつつ、地域に貢献できるような活動したら？
ということで参加しました。

Q3:消防団に入ってみての感想をお聞かせください。

規律と基本を大事にし、街の幅広い世代の方と交流ができることは入団してよかったと感じています。

Q4:操法大会に選手として初めて参加されましたが、感想をお聞かせください。

今回、初めて選手として参加し、選手側と補助側の景色が違いました。今までは補助側として選手の皆さんの訓練の手伝いをしておりましたが、いざ選手として参加すると基本を大事にしながら操法を行うことの難しさを肌で感じ、貴重な経験を得ることができました。

また、先輩方には操作方法を含めた様々な指導をして頂き、感謝しております。ありがとうございました。

Q5:今後の希望や目標をお聞かせください。

災害現場に行った際に身に付けた技術をしっかりと出せるようにしていきたいと思います。



■第4分団 長嶋恵子副分団長（団歴20年）

私の入団のきっかけは近隣の消防団のお二人に相次いでお声かけ頂き、地域貢献になる活動であること、また体を動かすのはやぶさかではなかったので、思い切って入団を決意。入団してからは活動を通し地域の方々との交流ができ救急救命が学べ指導員の資格も取得でき。偶然、熱中症で倒れた女性に遭遇した際も日頃の救命講習の賜物で迅速・冷静な対応で救命に携わることができました。

また入団間もなく消防操法の三番員の選手として出場、当時女性団員の出場は珍しく訓練は大変でしたが、やりがいと充実感があり振り返ると楽しい思い出となりました。更に今4分団には当時より多くの女性団員が在籍、今年の操法大会にも二人の女性団員が選手として出場。後継の女性団員の更なる活躍に期待満載です。

編集後記

本年の操法大会は新たな会場での開催となりましたが 天気にも恵まれ無事開催、選手をはじめ各分団の皆さま本当にお疲れさまでした。

さて、本号では操法大会や 分団員紹介に加え救急救命活動 特に女性を対象の場合のAEDの知恵などを勉強会の情報から共有しています。大森消防団ならではの情報 是非お役立てください。

[第4分団 安島 千也]



水防訓練の様子

大森消防団広報委員会

- 編集長 第1分団 平林 陽一
- 副編集長 第2分団 日野 晃 第3分団 小堀 恵
- 編集委員 第4分団 安島 千也 第5分団 原田 裕
- 第6分団 山口 フヨ 第7分団 大島 剛
- 第7分団 藤井 直美 第8分団 浦勇 和也
- 顧問 団本部 波田野 秀雄
- アドバイザー 団本部 鑑水 武雄